

令和2年(2020)10月 入域観光客数概況

34万1,200人
対前年(R1)同月比 -51万100人、-59.9%
～10月としては対前年同月比で過去最大の減少～

入域状況

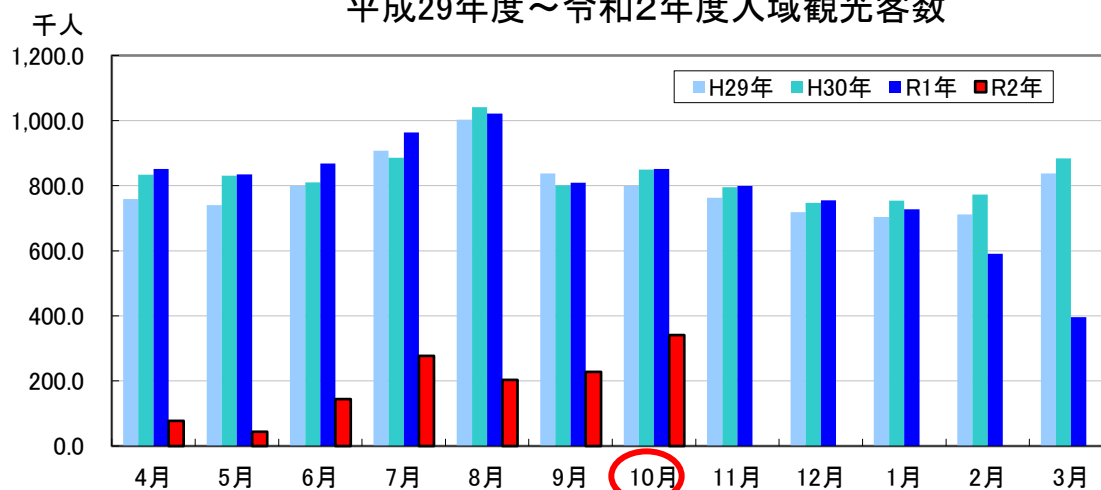
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	341,200 人	620,800 人	△ 279,600人	△ 45.0%	100.0%
外国客	0 人	230,500 人	△ 230,500人	皆減	0.0%
合計	341,200 人	851,300 人	△ 510,100人	△ 59.9%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	341,200 人	620,800 人	△ 279,600人	△ 45.0%	100.0%
外国客	0 人	195,700 人	△ 195,700人	皆減	0.0%
合計	341,200 人	816,500 人	△ 475,300人	△ 58.2%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

10月は、Go To トラベルの対象に東京都が追加されたことや航空路線の新規開設があったことなどから、特に本土と先島諸島とを結ぶ路線で回復したものの、新型コロナウイルス感染症のため旅行を控える動きが影響したことなどから、前年同月を大きく下回った。

11月は、厳しい状況が続くものの、航空路線の運休・減便の規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

外国客 入域状況

10月は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域が日本への上陸拒否の対象とされたことなどから、皆減となった。

11月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域が日本への上陸拒否の対象から外れたものの、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	180,900 人	300,100 人	△ 119,200人	△ 39.7%	53.0%
関西方面	73,000 人	119,100 人	△ 46,100人	△ 38.7%	21.4%
福岡方面	40,200 人	80,700 人	△ 40,500人	△ 50.2%	11.8%
名古屋	29,000 人	55,300 人	△ 26,300人	△ 47.6%	8.5%
その他	18,100 人	65,600 人	△ 47,500人	△ 72.4%	5.3%
合計	341,200 人	620,800 人	△ 279,600人	△ 45.0%	100.0%

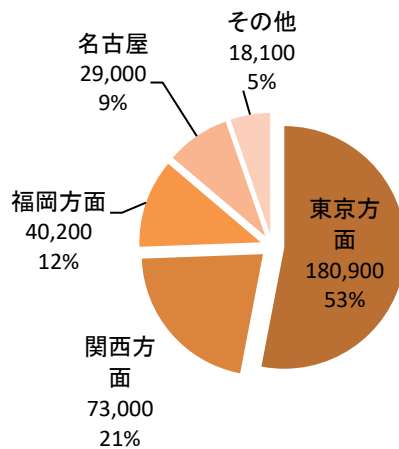
※国内海路客1,000人を含む(鹿児島1,000人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	73,800 人	△ 73,800人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	7,900 人	△ 7,900人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	73,700 人	△ 73,700人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	22,300 人	△ 22,300人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	3,700 人	△ 3,700人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	3,100 人	△ 3,100人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	2,400 人	△ 2,400人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	43,600 人	△ 43,600人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	230,500 人	△ 230,500人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、前年同月比で39.7%減の180,900人であった。Go To トラベルの東京都追加や羽田ー下地島路線の新規開設などから、先島諸島とを結ぶ路線で対前年同月に近い水準に回復したものの、羽田ー那覇路線などで減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

11月は、厳しい状況が続くものの、羽田ー那覇路線などで減便規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

関西

10月は、前年同月比38.7%減の73,000人で、主要方面別で最も減少率が低かった。神戸ー下地島路線の新規開設などから、先島諸島とを結ぶ路線で対前年同月に近い水準に回復したものの、関西ー那覇路線などで減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

11月は、厳しい状況が続くものの、神戸ー那覇路線などで減便規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

福岡

10月は、前年同月比50.2%減の40,200人で、主要方面別では最も減少率が高かった。福岡ー石垣路線などで回復したものの、福岡ー那覇路線などで減便規模の拡大があったことや北九州ー那覇路線が運休されていることなどから、前年同月を大きく下回った。

11月は、厳しい状況が続くものの、福岡ー那覇路線で減便規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

名古屋

10月は、前年同月比47.6%減の29,000人であった。特に先島諸島を結ぶ路線で回復したものの、中部ー那覇路線で減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

11月は、厳しい状況が続くものの、中部ー那覇路線で減便規模が縮小され、回復傾向が継続するものと予想される。

台湾

10月も台湾(台北、台中、高雄)ー沖縄(那覇、石垣)4路線が全て運休になっていることに加えて、4月3日以降、台湾が日本への上陸拒否の対象となっていたことなどから、前年同月73,800人から皆減となった。

11月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

10月も韓国(ソウル、釜山、大邱)ー那覇3路線が全て運休になっていること、日本において4月3日以降、韓国が日本への上陸拒否の対象となっていたことなどから、前年同月7,900人から皆減となった。

11月は、航空路線の運休や観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

10月も、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶)ー那覇6路線が全て運休になっていること、また、4月3日以降、中国が日本への上陸拒否の対象となっていたことなどから、前年同月の73,700人から皆減となった。

11月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

10月も香港ー沖縄(那覇、石垣、下地島)3路線が全て運休になっていることに加えて、4月3日以降、香港が日本への上陸拒否の対象となっていたことから、前年同月の22,300人から皆減となった。

11月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、観光目的での日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。